

セミナー通信

V o l . 1 5 6

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

テストの設問は英語も数学も日本語で書かれています

先月半ばすぎに、小学生募集の新聞折り込みチラシを一部地域に入れていただきました。その際、国語の力が大切である旨を書かせていただいたのですが、一部の方からの反響をいただきうれしく思いました。当塾は国語力の大切さを開塾以来唱え続けてまいりましたが、ここ2、3年の「日本語ブーム」のおかげか、世間の意識も変わりつつあるように感じます。このチラシに書きました国語の「受ける力」と「出す力」のうち、今回は「受ける力」についてお話したいと思います。まずはチラシの一部内容をご覧ください。

＊ 「受ける力」と「出す力」

口頭でも、書かれたものでも、その文章内容を正確に受け取る力と、自分の頭の中にあるものを正確に他人に伝えるように表現する力、これが「受ける力」と「出す力」です。国語力を上げるには、最低限この2つの力をしっかりつける必要があります。

いかがでしょうか。私の言う「受ける力」とは、一般的には「聞く力」、「読む力」、あるいは「読解力」といわれるものです。今年当塾は昨年と比べ小中学生とも国語を指導する機会が増えたため塾生の力がよく見えるようになったのですが、まずこの「受ける力」の弱さに愕然とすることがあります。「主人公の心情を読み取ることができない」などというレベルの話ではありません。もっと基本中の基本、「書かれた指示に従えない・指示がわからない」、あるいは「指示を読まない」というレベルのところからです。

先日、中3は国語の月例を行いました。その中の1つの設問に、「自分の意見を20字以上で書け」というものがありました。この指示を守って答えていた塾生は、なんと17人中わずか6人。今年度中3は学力が低いわけではなく、約4割の塾生が学年順位一桁にいます。中3ですらこの有様です。他学年は言わずもがなですね。思い当たることが多々ある塾生諸君も多いのではないのでしょうか。設問を正確に受け取ってなくて正解が出せるはずがありません。しかも表題にもあるとおり、テストの設問は英語も数学も日本語で書かれています。全ての基本です。国語だけでなく他教科のテストにおいても、「正確に指示を受け取ろう」と意識するだけで確実に点数は上がります。まずは意識を変えることから始めましょう。

「受ける力」をつけたら、その内容を自分の頭で吟味し、自分なりの意見、感想を持つのはその後です。自分の中にあるものを表現する力が「出す力」となりますが、これについてはまたの機会を設けたいと思います。